

令和元年
第127回

愛知県農業祭 献穀事業記念誌

●  西春日井農業協同組合

目次

愛知県農業祭献穀事業について	1
主催者あいさつ	2
「第127回愛知県農業祭献穀事業」の概要について	3
地鎮祭	4
播種祭	5
お田植祭	6
お田植まつり	7
刈穂祭	10
選別式	12
献穀献納	13
献穀奉納	14
献穀者お礼のことば	16
献穀事業に携わった役職員	17



愛知県農業祭献穀事業について

献穀事業は地域内に「斎田」を決め、そこで収穫されたお米等を宮中はじめ伊勢神宮、明治神宮、熱田神宮等に上納することで、五穀豊穡を天神地祇に祈り、自然の恵みと勤労に感謝して行われるものです。宮中では天皇陛下が御即位後初めて行われる新嘗祭である「大嘗祭」の式典で、大嘗宮に於いて全国各地で収穫された新穀など様々な神饌をお供えになり、そのあと御自らお召し上がりになられます。

大嘗祭は、天皇御一代に一度行われる祭祀で、御位につかれるうえで不可欠なものであり、数ある祭祀の中で最高の重儀とされています。



— 事業の経過 —

愛知県の献穀事業は、明治25年(1892年)豊明村で始まり、令和元年で127回を数える歴史的・伝統的な事業で、県内各農林水産事務所が持ち回りで実施しており、JA西春日井管内では、昭和54年に師勝町(現北名古屋市)にて実施しました。

元々この献穀事業は、農家あるいは県・市町村が主体となって実施していましたが、思想信条の自由という憲法の規定によって宗教行事と受け取られる向きがあることなどから公的機関である県・市町村においての献穀事業が難しいため、農業団体が中心となって実施する方向が定着しました。

今回は愛知県農業祭献穀事業開催計画に基づき、尾張農林水産事務所管内において平成30年に開催されたJA愛知北から櫛をつなぎ、令和元年はJA西春日井が主催し「第127回愛知県農業祭献穀事業」を実施することになりました。



主催者あいさつ

第127回愛知県農業祭献穀事業にあたり、主催者を代表してごあいさつ申し上げます。

愛知県の献穀事業は、明治25年豊明村（現豊明市）で始まり、JA西春日井管内では、昭和54年に師勝町（現北名古屋市）にて実施されて以来の開催となりました。

この由緒ある伝統的な事業の大任を果たし次世代に伝えるため、農協内に運営委員会を組織し、斎田を北名古屋市鹿田の地に設け、献穀者を増田敏男様にお願い申し上げ進めてまいりました。

平成31年2月27日の「地鎮祭」に始まり、4月25日の「播種祭」、元号が令和となった5月30日には大祭である「お田植祭」を晴れ渡った青空のもと厳粛に執り行うことができました。神事である「お田植祭」に引き続き催行した「お田植まつり」では、昭和54年に献穀事業を実施した際に、元代表理事組合長岩越長一様が五穀豊穰を祈り作詞された「お田植え歌」を名古屋芸術大学ご協力のもと、美しい歌声で独唱をご披露いただきました。また、来賓代表者と早乙女11名に早苗を植えていただき、盛大に開催することができました。

献穀者増田敏男様には献身的にお取り組みいただき、大変なご苦勞をお掛けしました。そのお陰をもちまして、まさに「天の恵み」、「地の恵み」、そして「人の恵み」を受けて「あいちのかおり」が立派に育ち、黄金色の豊かな実りをいただくことができました。その後、10月7日には「刈穂祭」を迎え、10月19日には「選別式」を執り行い、10月30日宮中において無事に献納を終え、翌31日には明治神宮へ奉納いたしました。

愛知県神社庁役員 十所社宮司 三輪真生様には、長きに渡り斎主としておつとめいただき誠にありがとうございました。

11月22日には、十所社および熱田神宮に、11月27日には伊勢神宮への奉納をもって本事業を滞りなく納めることができました。

本事業を契機に、古来より受け継がれてきた「農業への思い」と「お米の文化」について改めて重要性を認識することができました。本事業に携わっていただきました皆さまに心より感謝申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



西春日井農業協同組合
代表理事組合長 後藤 眞次

「第127回愛知県農業祭献穀事業」の概要について

- (1) 献穀者 増田 敏男（北名古屋市西之保青野）
- (2) 斎 田 ①斎田の位置 北名古屋市鹿田才海65(カントリーエレベーター北隣)
②斎田の面積 473㎡(台帳面積)(うち204㎡ 献穀田)
③斎田の前作 水稻
- (3) 献穀米の品種 あいちのかおり
- (4) 主 催 西春日井農業協同組合
- (5) 献穀先 宮内庁(宮中)
- (6) 祭 事
- 地 鎮 祭 平成31年 2月27日(水)
 - 播 種 祭 平成31年 4月25日(木)
 - お田植祭 令和 元年 5月30日(木)
 - 刈 穂 祭 令和 元年10月 7日(月)
 - 選 別 式 令和 元年10月19日(土)
 - 献 納 令和 元年10月30日(水)



斎田主要耕種設計

栽培品種：あいちのかおり 斎田面積：204㎡

作業月日	作業名	作業内容
2月1日	土づくり	土壌改良材散布
2月・3月	耕 起	1・2回目
4月10日	播 種	お田植祭用あいちのかおり
4月21日	代 か き	播種祭用代かき
5月20日	耕 起	3回目
5月27日	代 か き	お田植祭用代かき
	除 草	前処理剤散布
5月31日	田 植	
	除 草	除草剤散布
7月下旬	中 干 し	茎数18～20本確保後 8月2日まで実施
8月27日	出 穂	
9月3日	防 除	カメムシ防除 出穂7日後頃
9月29日	落 水	
10月8日	収 穫	本田稲刈り
	乾燥調製	
10月18日	搗 精	

地鎮祭

平成三十一年
二月二十七日



◆「刈初の儀」を行う主催者



◆「穿初の儀」を行う献穀者

式次第	
修禊	(同起立)
神饌	(同起立)
祝詞奏上	(同起立)
清酒	(同起立)
地鎮行事	(同起立)
五穀奉養	(同起立)
神饌	(同起立)
界	(同起立)
以上	



◆「斎鋤の儀」を行う施工主



◆祝詞奏上の様子



献穀者をはじめ、来賓・斎田施工業者・農協役職員が参列しました。
斎主の先導により「刈初の儀」「穿初の儀」「斎鋤の儀」などの神事を行い、その土地の神を祀り、豊作と作業の際の事故防止を祈願しました。

播種祭



平成三十一年
四月二十五日

献穀者が斎田を耕したのち、献穀者主催者来賓が「升枧に入った「あいちのかおり」の
籾を斎田に播き、苗の生長と五穀豊穡を祈る「播種の儀」を行いました。



◆ 斎田に鍬を入れる献穀者



◆ 斎田で「清祓・散供の儀」を行う斎主



◆ 水取口に斎串を立てる十所社三輪宮司



◆ 籾を播く献穀者・主催者



◆ 籾を播く長瀬北名古屋市長・水野愛知県議会議員
ほか来賓



◆ 籾を播くJA愛知中央会加藤専務理事・JA関係者



◆ 神事に臨む参列者



◆ 手水で身を清め式場に入る参列者

お田植祭

令和元年
五月三十日

稲の豊作を祈り行う神事。献穀者や早乙女代表者らが、斎田に苗を植える「お田植の儀」を行い、田の神を祀りました。



◆ 斎田をおこす献穀者



◆ 献穀者・主催者・早乙女による「お田植の儀」



◆ 会場入口で来賓を迎える早乙女



◆ 玉串奉奠を行う献穀者夫妻



◆ 玉串奉奠を行う早乙女代表



◆ 祈りを込めて斎主と参列者が直会

お田植まつり



◆斎田に植える苗を手に携える早乙女

お田植え歌

作詞 岩越長一

作曲 岩槻三江

1. きみひさそ
2. んずきなよ
3. のほみえか
4.
5.

しやちほちこ一なみ
ゆずきおたかよなくみ
さぜおふけーーーおそ
あさまそおーおとろぎにりいる
ーつめらだまはのむにせ
ーーーーー

みいおそこなせたるがみぎういねにのえにが
わわねえきりいもるにしだふあなかしくおり
おいむうあどらだつりこしすばまろくきめす
めたかぶのこああとい

お田植え歌

一、金の鯨ほこ 南に仰ぎ
尾張師勝は 米どころ

二、瑞穂豊かな 井瀬木の里に
斎田注連縄の あたらしく

三、引き水清く お田植え祭り
胸もふくらむ 紅だすき

四、早苗早乙女 揃いに揃い
植える青田に とぶつばめ

五、そよ風吹けば 黄金がおどる
秋になりませ 祈ります



神事「お田植祭」に続いて行われる祭事。十一名の早乙女が、斎田に降り立ち、太鼓の打ち込みに合わせた所作で苗を植え豊作を祈りました。披露された「お田植え歌」の歌詞は、四十年前に師勝町（現北名古屋）で献穀事業が行われた際にこの地を想い作詞されたものです。

お田植まつり



◆ 斎田前に整列する献穀者・来賓・早乙女・田男



◆ 献穀者から苗を受け取る来賓



◆ 来賓によるお田植え



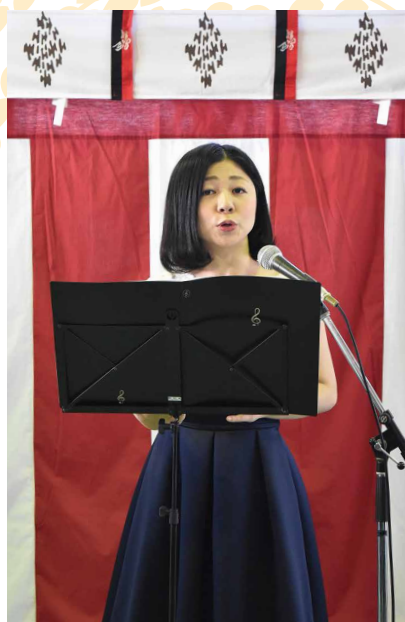
◆ 献穀者から苗を受け取る早乙女



◆ 田男の先導で斎田に入る早乙女



◆ 献穀者夫妻と早乙女



◆ 名古屋芸術大学卒業生 原綾美様による
「お田植え歌」の披露



◆ 斎田で一列に並び、太鼓の合図に従い苗を植える早乙女



刈穂祭

令和元年
十月七日

献穀者・主催者・来賓の代表が、豊かに実った稲を収穫する「刈穂の儀」、収穫した刈穂を千歯扱きを使って脱穀する「脱穀の儀」を行いました。その後、祭壇に献納米を供え、参列者は収穫の無事に感謝しました。



◆ 神職から鎌を受け取る主催者



◆ 稲刈りを終えて斎田に一礼する献穀者・主催者



◆ 斎田で稲を刈る献穀者・主催者



◆ 「刈穂の儀」を行う斎田の前に並ぶ神職・献穀者・主催者・来賓



◆ 稲刈りを終えた来賓



◆ 来賓に鎌を渡す献穀者



◆ 刈り取った稲を束ねるJA職員



◆刈り取った稲を神前に捧げ持つ献穀者・主催者



◆脱穀をする献穀者



◆脱穀をする主催者



◆刈り取った稲を祭壇に供える様子



◆神職に粃を手渡す献穀者



◆脱穀した粃をふるいにかけるJA職員

選別式

令和元年
十月十九日

第127回 愛知県農業祭献穀事業
米選別式 令和元年10月19日



◆米を慎重に選別する献穀者・主催者

献穀者と主催者がマスクと手袋を身に着け、刈穂祭で収穫した「あいちのかおり」の中から、割れがある米などをピンセットで取り除きました。選別した献納にふさわしい濁りのない米二升分を献穀者が桐箱に納めました。



◆内袋に米を納める献穀者



◆米を納めた桐箱を整える献穀者



献穀献納



令和元年
十月三十日



◆ 献納を終えた献穀者夫妻（皇居坂下門前にて）



◆ 「庭積の机代物」の供納が行われた宮内庁



◆ 身支度を整えた献穀者夫妻・主催者

十一月十四日から十五日にかけて執り行われる大嘗祭で「庭積の机代物（にわづみのつくえしろもの）」として供えられる米とアワが全国各地から宮内庁に集まりました。献穀者夫妻・主催者が「あいちのかおり」二升を納めました。

献穀奉納

令和元年

十月三十一日
十一月二十二日
十一月二十七日



◆明治神宮神楽殿前にて



◆明治神宮にて



◆十所社宮司に献穀米を手渡す献穀者



◆十所社にて玉串奉奠を行う献穀者夫妻

献穀者と主催者は、十月三十一日に明治神宮、十一月二十二日に十所社および熱田神宮、十一月二十七日には伊勢神宮を訪れ、献穀米を奉納しました。



◆ 熱田神宮本宮にて



◆ 熱田神宮神楽殿前にて



◆ 伊勢神宮御饌殿前にて



◆ 伊勢神宮正宮前にて

献穀者お礼のことば

第127回愛知県農業祭献穀事業を西春日井農業協同組合が執り行うことになり、皆さま方にご推挙いただき献穀者という名誉あるお役目を拝命致し、幸甚の至りであります。

振り返りますと、2月の「地鎮祭」に始まり、4月の「播種祭」、5月の「お田植祭・お田植まつり」、そして10月には「刈穂祭」を無事に終了することができました。なかでも「お田植祭・お田植まつり」では、丹精込めて育てられた早苗が、ご来賓の皆さまの手により青空が水面に映る斎田へ植えられ、名古屋芸術大学にご協力いただいた「お田植え歌」の美しい歌声に乗せた古式ゆかしい早乙女のお田植へと繋がる光景は、感激の極みでありました。

10月19日の「選別式」を経て、10月30日には大嘗祭に向けた「庭積にわづみの机代物つくえしろもの」の供納が皇居で行われ、斎田で収穫された「あいちのかおり」を納め、献穀者の任を無事つとめることができました。

第127回を数える愛知県献穀史に名を記すことができましたのも、関係者の皆さまの絶大なるご支援の賜と深く感謝申し上げます。

最後に、この農業祭献穀事業を契機として、地域農業の益々の発展と、ご協力賜りました皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、お礼の言葉とさせていただきます。



増田 敏男
和代



献穀事業に携わった役職員

【理事】総務委員長 天野 吉和
 総務副委員長 小川 克己
 委員 伊藤 正敏
 “ 川口 満永
 “ 木村 実勇喜
 “ 加藤 恭一
 “ 堀江 勇
 金融委員長 丹羽 聡
 金融副委員長 林 秀雄
 委員 原田 鉄雄
 “ 高山 美幸
 “ 栗木 猛
 “ 後藤 幸雄
 “ 大野 好美
 “ 山田 茂信
 “ 坪井 佳雅理
 経済委員長 鈴木 和彦
 経済副委員長 川崎 良一
 委員 江口 太一
 “ 日比 信
 “ 六浦 寿夫
 “ 青山 昭生
 “ 大口 進
 “ 堀部 達雄
 “ 後藤 登志恵
 【監事】代表監事 加藤 和生
 監事 鈴木 和弘
 “ 福田 吉伸
 “ 加藤 米美
 “ 海川 和行

【早乙女】信用部 資金課
 営農部 購買課
 本店営業店
 西枇杷島支店
 新川支店
 春日支店
 西春支店
 九之坪支店
 師勝支店
 鹿田支店
 青山支店

【太鼓係】開発相談部 不動産課 係長

【田男】営農部 営農指導課 係長
 営農部 販売課

【運営委員会】代表理事組合長
 常務理事
 常務理事
 常勤監事
 企画管理部 部長
 営農部 部長代理
 信用部 部長代理
 共済部 部長代理
 開発相談部 部長代理
 師勝支店 支店長
 監査室 室長
 企画管理部 企画管理課 課長
 営農部 販売課 課長
 企画管理部 総務課 課長代理
 営農部 販売課 係長

浅井 香衣
 下田 千紘
 岡本 希美
 加藤 恵梨華
 後藤 映里奈
 六浦 美咲
 田代 夏海
 加藤 里佳子
 水田 舞子
 坪井 瑠菜
 和佐田 麻夢

大野 靖幸
 日下部 晃司
 守屋 大輔

後藤 眞次
 江口 一郎
 犬飼 秀敏
 加藤 哲
 渡辺 三千雄
 井上 仙逸
 後藤 浩司
 丸山 武司
 宮寺 裕治
 森 新治
 篠田 浩治
 栗木 和浩
 橋本 健一
 松尾 雅之
 加藤 仁





西春日井農業協同組合

〒481-0033 北名古屋市長保南若11番地